観光立国の実現は地方（地域）から

国内旅行増売へ、各社の取り組みは

オリ・パラ開催で需要創出期待もIT化、ウェブ化への対応急務

2020年の幕開け。今年は旅行業界にとってどんな1年になるのだろうか。東京オリンピック（五輪）・パラリンピックなど、需要の創出が期待される明るい話題がある一方、IT化、ウェブ化の波が一層押し寄せ、既存のリアルエージェントも経営の大きな変革を迫られている。本紙新年号恒例の大手旅行業4社トップ座談会。今年は「令和新時代のツーリズム～課題と針路」をテーマに4氏に語っていただいた。【東京のパレスホテルで】

課題と針路を語る

19年の旅行業界を回顧

高橋氏

――（司会）改元、ラグビーワールドカップ（W杯）、多発する自然災害と、2019年もさまざまな出来事があった。まず、旅行業界全体と各社の振り返りを。

高橋　19年は「グローバルMICEの年」であった。大型の国際会議が続き、世界各国から多くの来賓を迎えての国家行事、そしてラグビーW杯は大いに盛り上がり、国あるいは業界にとっても経済効果がかなりあった。

今回、要人をはじめ、多くの方々が長期間、日本に滞在して、地方を回られた。日本をよく知ってもらうための、絶好の機会となった。直接的な経済効果はもとより、今後の訪日をさらに勢いつかせる効果もあったと思う。

エポックメイキングなもう一つの出来事は改元。ゴールデンウイーク（GW）の10連休が需要を取り込む上で大きかった。弊社もさまざまな令和がらみのツアーを出し、注目を集めた。

MICEが経済効果 10連休で動き活発に

高橋　米田

堀坂氏

消費税の増税は、私どもとしては、またプラスともマイナスとも言えない。増税前の駆け込み需要はあまりなかったし、増税後の需要の冷え込みも感じられない。1月からの国際観光旅客税の徴収も、ほとんど影響がなかった。

ネガティブな要素としては、自然災害。10月の台風19号は、特に団体旅行でかなり影響が出た。国が「ふっこう割」を導入したが、われわれは業界挙げて支援を行う必要がある。

日韓関係の悪化と街頭デモは、アウトバウンド、インバウンドに相当な打撃となっている。早い解決を願っている。

米田　エポックメイキングな出来事が三つあった。一つは社内の構造改革推進。近畿日本ツーリスト（KNT）とクラブツーリズム（CT）の顧客管理の統合や、後に話が出るだろうが、協定旅館ホテル連盟などの組織の一体化など、さまざまなことを進めている。

二つ目は6月のG20大阪サミット。われわれ近鉄グループが関西拠点ということで、いろいろとお手伝いをさせていただいた。首脳陣の移動もお手伝いし、無事に終わってなによりと考えている。

もう一つは、五輪の1年前ということで、7月22日にプレス発表を行うとともに、観戦ツアーの公募を始めた。ラグビーのW杯が終わり、スポーツ熱が一段落しているが、五輪のカウントダウンでこれから再度盛り上がるだろう。

令和の新時代も始まった。改元に伴うGWの10連休でお客さまの動きが国内外とも活発化した。上皇陛下、天皇陛下が伊勢神宮を参拝され、お伊勢参りが活発化したこともあった。

消費税の増税は、高橋社長がお話された通り、わが社も今のところ大きな影響は出ていない。

堀坂　GWの10連休は、かなりの需要を取り込むことができた。今までは、国内は好調だが海外が今一つとか、またはその逆であったりしたのだが、19年は国内、海外ともに、旺盛な需要をリアルに実感できた。10連休を見据えてわれわれもかなり早くから仕掛けをしてきたし、社員が頑張った成果だと思う。

改元については、われわれのような熟年層だけでなく、若い人も前向きに捉えており、旅行も含めて日本全体が盛り上がった。

ラグビーW杯では当社も海外のエージェントからのツアーの受け入れや、観客輸送などのお手伝いをさせていただいた。ワールドマスターズゲームス、大阪・関西万博と、関西では大きなイベントが今後開催される。われわれにとって良い経験となった。

19年はツーリズムEXPOジャパンが東京以外の大阪・関西で初めて開かれた。鉄道会社をはじめ、地元の財界がかなり力を入れて取り組み、今後に向けて関西のツーリズムを盛り上げていこうとの機運が高まった。西日本は前年の台風と豪雨で被災し、非常に苦しい思いをしたが、前向きな明るい光が差し込んできた。

消費税増税は、JR券で若干の駆け込み需要があったが、当社にとっても大きなプラスやマイナスの実感はない。国際観光旅客税の徴収開始も、マイナスの状況は今のところない。

19年も災害が多く発生した。被災地だけでなく、観光地に行くアクセスも被害を受けた。私も鉄道会社出身だけに、心を痛めている。

坂巻　19年を考えると、改元、10連休、国際観光旅客税、消費税、自然災害と、いくつかのキーワードが出てくる。

さらに、SDGsという言葉が標準化した年といえるのではないか。

国連サミットで示された2030年までの17の国際目標に旅行業としてどう取り組むかを、われわれは考えてきた。

教育旅行の分野で、SDGsと連動したプログラムを開発した。私立高校と共同開発した「グローバルスタディツアー&キャリアプログラム」で、学年ごとに多くのプログラムを設定している。既にさまざまな学校からお声掛けをいただいている。

謹賀新年

下呂温泉　水明館
〒509-2206　岐阜県下呂市幸田 1268
TEL (0576) 25-2800　FAX (0576) 25-4520　https://www.suimeikan.co.jp/